

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 勝山市立三室小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒 911 - 0834
福井県勝山市遅羽町大袋40-67

E-mail : mimurosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 27 名 女子 14 名 合計 41 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

全校の取り組み

1 「赤トンボ調査」(6月～10月)

(1) ねらい

勝山のお宝である赤とんぼの生態を調査し、赤とんぼが棲める勝山の自然や環境に関心を持ち、この環境を守っていくためにはどうしたらよいかを考える。

(2) 活動内容

- ①赤トンボの抜け殻(羽化数)を6月中旬から約1ヶ月間、毎朝調査し、赤トンボの個体数を推定した。
- ②赤トンボの羽に印をつけ、9月下旬頃から印のついた赤トンボを探した。
- ③越冬させた卵の孵化やヤゴの様子を観察する。

2 「野菜作り・カンタケ栽培・ふれあい給食」(5月～2月)

(1) ねらい

自分たちの手で野菜やカンタケを栽培したり、それを給食でいただいたり、野菜農家さんと交流したりすることで、食の大切さ(健康との関連、安全性、感謝の気持ち)を考える。

(2) 活動内容

- ①学校の畑で、野菜を栽培し、収穫した。
全校(じゃがいも、大根、カンタケ)
各学年(なす、レタス、トマト、落花生、にんじん、かぶ、きゅうり など)
- ②じゃがいもや大根を、保護者会の日に、お家の方に販売した。
- ③カンタケの菌床をプランターに植えて、育てた。
- ④給食に食材を提供してくださっている農家の方をお招きして、ゲームや会食で交流した。
- ⑤毎週金曜日に、全校で給食をいただいた。箸や食器の持ち方などの食事のマナーを確認したり、献立に係る食材や風習等の話を聞いたりした。

「学習発表会」(11月16日)

- ・地域の方を学校に招いて、学習してきたことを保護者や地域の方に、自分たちの活動の成果や課題を発信した。

各学年の取り組み

1 1年生「地域の方から学ぼう」(1月)

(1) ねらい

地域のお年寄りの方から、昔の遊びなどを教えていただく活動を通して、お年寄りを敬う心を持ち、お年寄りとのコミュニケーションのとり方を考える。

(2) 活動内容

- ①地域のお年寄りの方たちを学校へ招待し、昔の遊びを教えていただいた。
- ②給食を一緒にいただき、楽しく会食した。
- ③お礼のお手紙を書いて、送った。

2 2年生「おそわ町たんけん・・・おそわ町のたからさがし」(9月～11月)

(1) ねらい

自分たちの生まれ育った地域の良さに気づき、それを伝えていくためにどうしたらよいかを考える。

- (2) 活動内容
- ①お家の人から聞いてきた、自分が住む地区の自慢をもとに、調べたいことを決めた。
 - ②現地へ行き、地域の方々に町の自慢（古くからあるものや2年生の子どもたちに伝えたいもの）を教えていただいた。
 - ③調べたことをまとめ、掲示した。

3 3年生「勝山の動物とともに生きていくために」（5月～11月）

- (1) ねらい
- 勝山に棲んでいる野生の動物たちの生態やこれらの動物から受けている被害などを調べることを通して、勝山市の環境に関心を持ち、これらの動物たちとの共存を考える。
- (2) 活動内容
- ①遅羽町で育つ食べることができる植物を調べた。人が食べられる植物の中にも動物が食べる植物があり、遅羽町には、動物のエサとなる植物が多いことを確かめる。
 - ②勝山市に棲む野生の動物の生態や、人に及ぼす害、またその被害から逃れるための方法を調べ、学習発表会で地域の方に伝えた。

4 4年生「遅羽町の川を調べよう」（5月～11月）

- (1) ねらい
- 遅羽町の川の生き物を調査することで遅羽町の環境に興味を持ち、昔のように遊べる川にするためにはどうしたらよいかを考える。
- (2) 活動内容
- ①遅羽町の川に棲む生き物の調査をした。カワムツ、オイカワなど4種類の魚を発見し、学校の玄関で育てた。新たにスナヤツメを発見して水槽に入れたところ、他の魚に食べられてしまい、食物連鎖や命について考えることができた。また、前園先生にサワガニの雄雌の見分け方なども教えていただいた。この調査で、川に洗剤の泡や空き缶などのゴミが流されており、遅羽町の川は思ったより、汚されていることに気づいた。
 - ②川の水はどこから来るのかを調査した。峠崎の川をさかのぼり、リバークリーンステーションにたどり着いた。関西電力が九頭竜川から水を引いてダムにしていることが分かった。
 - ③川遊びを体験した。自作の釣り竿や仕掛けをつくり、それで魚が捕まるかを試してみた。
 - ④この活動から「もっときれいな川にしたい。」という思いを持ち、学習発表会で地域の人に呼びかけた。

5 5・6年生 「修学旅行で調べたことを伝えよう」（6月～12月）

- (1) ねらい
- 勝山市と他の地域と比べることを通して、これから勝山がどうなってほしいのかという願いを持ち、発信する。
- (2) 活動内容
- ①修学旅行での班別行動でインタビュー活動を行った。「どこから来たのか。」「見学の予定」「その場所の魅力はどこか。」などの内容で質問した。
 - ②学習発表会では、これから勝山がどうなってほしいのかという願いを伝えた。また、修学旅行や夏休み中のインタビュー活動を生かして、「勝山のおすすめの観光1日コース」をテーマに、観光パンフレットを作成した。12月に市役所で自分たちの作ったパンフレットをPRし、市長に自分たちの思いを伝えた。

